

インドネシアで酪農支援

開発途上国の生活環境改善に取り組みAMD A社会開発機構(岡山市北区蕃山町)は2月から、インドネシア中部のスラウェシ島で、酪農家の生計向上を目的とした支援事業に乗り出す。同島で酪農指導の実績がある島根県大田市のNPO法人「三瓶スラウェシ友好促進センター」と連携。飼育技術を向上させて収入アップを図るとともに、牛乳普及を通じて健康増進にもつなげる。(杉本明信)

AMD Aなどによる「産業として定着」と、インドネシアは乳製品消費が年々増加。政策的効果的な取り組みを展開している。友好促進センターは2000年、スラウェシ島で飼育技術などを指導した。今回の事業を始めるに当



したい」と同センターのD Aに協力を依頼した。広本隼人理事長。アジア事業展開するのはスラなどで支援活動を展開ウエシ島南西部のシンジ、行政との連携や資金ヤイ県。南部に広がる標調達の経験が豊富なAM 高約千呎の高原地帯に約



スラウェシ島シンジャイ県で酪農を営む人々
(AMD A社会開発機構提供)

島根の飼育指導や牛乳普及 NPOと連携

1500戸の酪農家が点在しており、人工授精や飼料の作り方などを指導し、繁殖を促進させる計画。搾った牛乳は現地の小学校の給食に提供する。

AMD Aは今月中旬、インドネシア語に堪能なスタッフ1人を派遣。既に行政担当者らとの調整・折衝に当たっている。このほかODA(政府開発援助)の補助金を活用して資金を調達。技術指導に使うテキストを作成したり、事業が現地の人々の生活改善にどう貢献するのかも検証する。

AMD A社会開発機構の鈴木俊介理事長は「牛乳や乳製品の製造、販売などの支援に連携して取り組み、インドネシアの人々の生活環境向上に寄与したい」と話している。